

## ◆記念講演

大日方純夫さん（早稲田大学名誉教授）

「近現代「日本」を東アジアの視点で読み解くには  
—豊かで柔軟な歴史認識を獲得するために—

大日方純夫（おびなた・すみお）：早稲田大学文学学術院名誉教授／日本近代史。主著は『警察の社会史』（岩波新書、1993年）、『はじめて学ぶ日本近代史(上)(下)』（大月書店、2002年）、『未来をひらく歴史：東アジア3国の近現代史』（共著、高文研、2005年）、『新しい東アジアの近現代史：未来をひらく歴史(上)(下)』（共著、日本評論社、2012年）、『日本近現代史を読む 増補改訂版』（共著、新日本出版社、2019年）、『世界の中の近代日本と東アジア』（吉川弘文堂、2021年）など。現在、『未来をひらく歴史』シリーズの三期本を準備中。

## ◆地域からの報告

東海林次男さん（東京都歴史教育者協議会会長）

「高輪築堤の現状」

2021年12月26日（日）10:00-16:30

◇全体会⇒10:00-12:00 記念講演  
(休憩)

13:00-14:00 地域からの報告

◇分科会⇒14:15-16:30 ①小・中学校分科会  
②高校分科会A  
③高校分科会B

参加費：会員・一般1,000円／学生・25歳以下500円（高校生以下は無料）

申込：<https://forms.gle/kLn3vf4aVngFmG2Y9>

※申込後、確認メールにしたがい12/17までに参加費をお支払い下さい。



## ◆記念講演：大日方純夫さん「近現代「日本」を東アジアの視点で読み解くには—豊かで柔軟な歴史認識を獲得するために—

近年、歴史教育をめぐる状況が特に大きく変化しています。新学習指導要領では教育内容に加えて教育方法を指定するという段階にまで踏み込んでおり、次年度からはよいよ高校で「歴史総合」が始まります。一方、閣議決定に従って教科書会社が使用語句変更を余儀なくされるなど、歴史教育への政治的な介入がよりいっそう強まっています。このような状況下で、どのような歴史実践を重ねていくべきでしょうか。

今回の記念講演は、大日方純夫さんにお願ひしました。これまで日本近代史を研究し、また、三国歴史共通教材編纂など歴史教育にも関わりを持ち続けてこられた立場から、近現代「日本」をどう捉えるかについてお話ししていただきます。分断が進む世界で、一人一人が豊かで柔軟な歴史認識を獲得するためには、東アジアの視点で「歴史」を読み解いていくことがより大切となってきます。近代前期（日清・日露戦争前後の時期）の具体的事例も交えたお話になりますので、これからの授業づくりのヒントを得る貴重な講演になるかと思ひます。

## ◆地域からの報告：東海林次男さん「高輪築堤の現状」

日本で初めて新橋・横浜間に鉄道が走って、来年 2022 年で 150 年になる。その際、陸地を走ることを反対された地域では、海中に堤防を築いて鉄道を走らせた。その堤防跡が高輪ゲートウェイ駅近くの工事現場で見つかった。この高輪築堤をめぐる JR 東日本や政府、各種学会の動きと現状を紹介し、埋蔵文化財保存の問題を一緒に考えてみたいと思ひます。

## ◆分科会レポート一覧

### 小・中学校分科会

#### 藤田康郎さん（東京） 「絵本『花ばあば』を通して日本軍「慰安婦」について考えた ～6年生の歴史教育・性教育～」（小）

日本軍「慰安婦」問題は政府を含め「無かったことにしよう」という力が大きく働いているように感じる。子どもたちと沖縄戦を中心とした戦争の歴史を学ぶ中でこの問題は出てくる。性教育を積み上げることで事実を受け止め、この問題を考える子どもたちの姿が見られた。

#### 向山三樹さん（山梨） 「昔から今へと続く町づくり ～用水の開発の歴史～」（小）

退職後非常勤として働いているが、出前授業の講師としていくつかの学校に出向いている。特に小4の地域学習で「昔から今へと続くまちづくり」の地域の開発単元として「徳島堰」「朝穂堰」について副読本の一般的な学習ではなく子どもたちがどのように学びを追求したか、教材づくりと実際の授業について報告したい。

#### 福永徳善さん（神奈川） 「生徒が歴史に向き合う学び ～ICTを活用して～」（中）

歴史が「現在と過去との絶え間ない対話である」ならば、幼い歴史家たちはどのような方法で過去と向き合い、「対話」することができるだろうか。「映画の主人公に手紙を書く」、「歴史上の人物になりきって語る」、「人物の通知表を書く」、「歴史法廷で政策や対応の是非を評決する」、「身近にある〇〇文化を感じるモノを紹介する」など中高生がタブレット PC やスマホを使って取り組んだ主体的な学びを中心に紹介する。

### 高校分科会 A

#### 古賀なつきさん（東京） 「歴史と対話する ～大航海時代と BLM 運動をつなげる～」（高）

大航海時代の単元の出口に、昨今の BLM 運動を据えた授業実践である。「今を生きる私たちがこの歴史にどのように向き合うのか」をまとめの問いにして、黒人差別の問題に丁寧に取り組んだ。またこの実践では、担当教員で共通教材冊子を作り、抑えたいポイントと問いを合わせつつ、授業の自由を保障することを目標として行った。「現代に生きる私たち」が歴史と対話することを高校 2 年生全体で行った実践である。

#### 日達綾さん（神奈川） 「ありのままの私で生きる ～SDGs5 ジェンダー平等～」（高）

高校生たちは生活にジェンダーが深く影響していることに気づき、関連する自身の課題を設定。質問を考えそれぞれが自分が選んだ手段で地方議員にアクセスし探求した。メールや SNS を利用する生徒、街頭演説をしている議員と話す生徒、事務所を尋ねる生徒がいた。男だから、女だからという役割に押し込められず、ありのままの私で生きる社会に。みんなでジェンダー平等について考えてみませんか。

### 高校分科会 B

#### 松井知沙さん（千葉） 「世界史の授業で日韓関係を考える」（高）

授業を前にして、韓国で行われた、日韓関係に関する世論調査の分析を生徒に行かせた。生徒から出た感想・疑問は「日本に対して良くない印象の人が思った以上に多い」「一方的な見方をされている」「過去のことにこだわっている」などだった。では、なぜなのか。授業を通して歴史への認識を深めたうえで、自分が当初あげた疑問点へ答えてもらった。生徒が自らの歴史認識を自覚し、認識を問い直すことができたのか、報告する。

#### 鮎澤譲さん（山梨） 「高校世界史・地理の授業での朝鮮人戦時動員の学習」（高）

高校の担当した世界史と地理の授業の中で、朝鮮の近代史、日本の韓国併合による朝鮮の植民地支配について学習した。特に、戦時中の朝鮮人強制連行などの朝鮮人労働者の戦時動員に焦点をあてて学習を進めた。その取り組みを報告する。併せて、山梨県の戦争遺跡と朝鮮人戦時動員と関係を明らかにして、地域における戦争加害、植民地責任の視点から、その教材化についても報告する。

#### 高野晃多さん（東京） 「「被害」と「加害」の重層性 ～生徒の歴史意識をいかに育むべきか？～」（高）

東南アジアにおける植民地支配が戦時中に折り重なった焦点として、泰緬鉄道を見つめていきます。その上で、戦争犯罪・戦争責任を通して、戦争における「被害」と「加害」の重層性を考えていく授業実践を報告する。また、戦争にまつわる多様な「記憶」をいかに生徒に理解させ、考えさせるのかを検討する中で、安易な責任論に集約されない生徒の歴史意識をどのように育むのかについても考えていきたい。